

Title	長崎随筆(大庭燿著, 郷土研究社発行)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.2 (1928. 7) ,p.151(305)- 151(305)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280700-0152

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

實に本書は複雑なる社會現象及び其の變遷を巧に統一整頓した點に於て、又は意見の正鵠なる點に於て、その綜合的態度が明白に表明され、且つ多くの圖版を挿入し平易なる文體を以て記述した點に於て、一般讀書人に喜ばる可き事を示してゐる。兎に角綜合的研究の良著にとほしい我國に於て、本書の刊行を見た事は喜ばしき事である。敢て一般人士の國史として又は參考書として推薦するものである。(今宮新)

紀州有田民俗誌(笠松 彬雄編) 郷土研究社發行)

本書は爐邊叢書の一冊であつて、『こんどくるときあもてきておくれ、有田みかんの鈴なりを』といふ民謡によつて知られた所謂紀州蜜柑の本場である有田郡の東部の山村八幡村を中心とした民俗誌である。『土地の俗謡』は、村の無名詩人たちがその地の状態や人情や戀愛事件などをうたひこんだもので、誠に興味ふかいものであり、『年中行事』や『臨時行事』によつて、ほゞ一年間の村の農事や慣習を知ることができる。また『俗信』や『俚諺めいた言葉』や『謎々』などは、他の地方との類似を多數にみるやうであるが、村人の精神生活を知る上に重要であり、殊に『大和言葉』といふ戀の暗號がかくまで豊富に用ひられてきたことは、原始的な農村にはめづらしいことである。『子供言葉』と多くの『俗謡』とは、これほど素朴な村人の生活の反映である。本叢書も本書をもつてすでに二十三冊の多數に上つたが、今後ますます續刊されて、わが民族學の興隆に貢献されんことを祈つてやまない。(松本芳夫)

書 評

長崎隨筆(大庭 燾 著) 郷土研究社發行)

表題が示す如く本書は純然たる隨筆集である。收むる所の十數篇、勿論一貫した統一はない。それは過去の長崎の物語を材料として、極めて叙情詩的な筆致をもつて描いた文學的所産である。即ち著者は卷末に「浪びゆく古き長崎の異國情趣を回顧追憶して讀者と共におらんだの夢、もろこしの夢に遊ぼう」と謂つてをり、從つて著者の想像は各所に加へられ、又た主觀も濃厚に盛られてある。然し著者が各篇に就き正確なる史實の詮索を怠らないことは注意すべきである。本書の序文に於いて吳博士は、十數篇中「蘭館醫シーホルトと其扇」の一篇が白眉ならんと述べて居らるゝが、本篇は著者が餘りにシーホルト及び其扇に同情を寄せらるゝ爲に多少主觀に過ぎた感がある。されど其の他の諸篇例へば「唐紅毛風の小唄」と題する支那人蘭人風の長崎獨特な流行唄のこと、或は「長崎の繪踏」と題する踏繪板やその行事など、さては「おろしや船渡來一件」の史實の叙述の如きは、過去の長崎文化の特有なる雰圍氣を躍如として味ははしむ。苟も長崎の過去を物語るものは、一木一草と雖も捉へ來つて、之に深い厚意と同情とを垂れたる、情熱に溢るゝ著者の態度に親まれる。挿むところの貴重なる資料寫眞十八葉。要するに長崎に生れ、長崎に住み長崎を愛し、よく長崎の史實に通じた人にして初めてなし得る種の獨自な著である。本書は郷土研究社發行同社第二叢書中の一。(有賀春雄)

(一五) 一五一